

国際日本学インスティテュート

Graduate School of Humanities / International Japan-Studies Institute

募集人員：修士課程 14名程度／博士後期課程 5名程度 | 開講形態：**昼夜開講** | キャンパス：市ヶ谷

「学際」と「国際」——学問領域の枠を超え、国境を超え、世界の中の日本を視る。

国際日本学インスティテュートは、哲学・日本文学・英文学・史学・地理学の5専攻が共同で開設する、日本研究に特化した教育研究プログラムです。思想・芸術・文学・語学・歴史・民俗・生活文化・地理・環境などを切り口に、日本について深く探究することを目指します。

また、一言で「日本」といっても、そこには多様な側面が存在しています。例えば、沖縄からアイヌ民族、そして在日外国人たちとともに作り上げてきた日本文化や、これまで必ずしも学術的な対象として捉えられてこなかったサブカルチャーなど、日本研究の領域には広がりがあります。

そのため、国際日本学インスティテュートでは「学際性」と「国際性」を重視して研究を進めます。一つの学問領域を研究しているだけでは得られない知見を、専攻横断的なカリキュラムを通じて獲得することができます。また、世界各国の留学生が集まる場として、海外からの視点や比較の視点による研究も実現することができます。多様な日本を、多様な背景と関心を持った仲間が学び合う、新たな知的探究の場がここにはあります。

アドミッション・ポリシー

(学生の受け入れ方針)

日本研究は従来より、さまざまな専門分野に分かれている。本インスティテュートは、従来の分野に収まりきらないテーマを持っている者や、広い視野で日本を研究したいと願っている学生や社会人や外国人留学生にとって、最適な専攻である。多様な分野の教員による演習では丁寧な論文指導を行い、指導教授の演習を拠点に、ほかの演習や授業でも指導を受けることができる。一般入試のほかに社会人入試を設けており、さらに外国人入試では多くの留学生を受け入れている。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施方針)

指導教授が指導する演習では、通常の授業のほかに論文指導を行っている。全員参加の国際日本学入門や合同演習では、日本の今昔のさまざまな文化をゲスト講師から学び、さらに互いの論文テーマの発表や意見交換を行っている。英語・日本語それぞれの文章訓練を行う授業もある。独自の基幹科目と多様な共有科目があり、他専攻の授業でも指導を受けることも可能である。このように選択の自由のもとで幅広い知識を得ながら、演習では高度な専門的論文を執筆できるようにカリキュラムが組まれ、実施されている。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

修士の学位授与に当たっては、ほかの専攻とは異なり、幅広い分野を取り込んだ日本学の論文を執筆完成することを推奨している。博士の学位授与に当たっては、より専門的な論文を執筆するも、従来顧みられなかった大衆文化や異文化など多様な視点や個性的なアプローチ、挑戦的な方法を推奨している。博士後期課程の学生は国際日本学研究所の学術研究員となり、研究成果の発表、学術会合の参加などの機会が提供され、研究者としての意欲が求められる。

研究室紹介 | 日本の古典文学をアジア的視野からとらえなおす

小秋元専任教授 | 日本文学、特に日本中世文学、中世・近世初期出版文化、和漢比較文学

日本の古典文学は、いつの時代も中国からの影響を強く受けてきました。中国文学は日本文学に、表現や素材などの面で多くの典拠を提供しています。さらに視野を広げれば、アジア全域の各国・各地域には、共通する文芸の素材が、さまざまに形を変えながら伝わっています。つまり、日本の古典文学は、アジア的視野からとらえなおすことが必要です。私のゼミでは、多くの留学生がこうした切り口で、日本の古典文学と出身国・出身地域との文学の関連を研究しています。そのためにも、まず日本の古文に習熟することが大切です。授業ではその訓練に力を入れ、留学生としての立場を生かした研究が行えるよう支援しています。

※本インスティテュートには、このほかに思想史、日本語学、日中比較文化(文学系・文化人類学系)などの分野を扱う、全部で19の研究室があります。



Voice |



修士課程 在学中
カズ・バーバラ

母国で抱いた沖縄文化への興味を 実際に日本で研究するために進学

進学のきっかけ

学部時代に沖縄の文化と歴史について興味を持ち始めました。しかし、イタリアでは沖縄学の専門家は極めて少なく、私の大学も誰もいないという状況でした。その時の指導教員は東アジアの宗教の専門家で、折口信夫の「琉球の宗教」を紹介してくださいました。それがきっかけとなり、沖縄の宗教についてもっと詳しく知りたいと思い、直接日本に進学し、この研究をしようと考えました。

私の研究

琉球列島に伝承されている民間信仰では、さまざまな神々が、海・天・地底から村を訪れてくると信じられています。これらの神々を祀る祭りは地域により、女性祭祀組織か男性組織によって行われています。現在は沖縄の北部にある伊平屋島の「ウンジャミ」という祭りについて研究しています。この島の祭りは、奄美諸島と国頭地域の信仰に影響され、独特な性質があるとみられます。

[研究テーマ] 沖縄における海に関わる信仰—ウンジャミ祭りを中心に—

■専任教員と担当科目 (2016年度) ※年度により授業を持たない場合があります。 専 専門領域 研 研究テーマ 担 担当科目

<哲学専攻>

安孫子 信 専任教授 専 思想史
研 ヨーロッパと近代日本
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ 日本の思想・西欧の思想Ⅰ/Ⅱ
星野 勉 専任教授 専 哲学・倫理学
研 近現代日本思想、比較思想、比較文化論
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ

<日本文学専攻>

尾谷 昌則 専任教授 専 言語学
研 若者言葉、意味論、文法論、認知言語学
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ
小林 ふみ子 専任教授 専 日本近世(江戸時代)文学・文化
研 浮世絵も含む江戸の出版文化
担 ※今年度は、特定の科目を担当しません

島田 雅彦 専任教授 専 創作、小説論、文学史、戦後史、サブカルチャー
研 日本学、比較文化学、サブカルチャー・諸ジャンル
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ

間宮 厚司 専任教授 専 日本語学
研 日本古典語研究(万葉集・おもしろさうし等の言語学的研究)・日本語の変遷
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ

<英文学専攻>

川崎 貴子 専任教授 専 言語学
研 言語習得、音韻論、心理言語学、学習者に注目した第二言語教育
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ

<史学専攻>

小口 雅史 専任教授 専 古代日中比較文化論、日本古代中世北方史
研 日中比較律令法史・土地法史、蝦夷論、日本古代社会経済史
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ 東アジアの律令文化Ⅰ・2/Ⅱ・1・2

水野 和夫 専任教授 専 マクロ経済学、現代日本経済論、資本主義経済史
研 デフレ・ゼロ金利下における日本経済の課題、資本主義経済の課題と将来展望
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ

<地理学専攻>

伊藤 達也 専任教授 専 地理学、地域社会・地域経済研究
研 日本から東アジアにかけての水資源問題、環境問題
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ 日本の環境論Ⅰ/Ⅱ

小原 文明 専任准教授 専 地理学、都市に関わる社会的・経済的な事象
研 日本における都市の形成・変容および開発に関する研究
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ 日本の産業風土Ⅰ/Ⅱ

濱中 春 専任教授 専 ドイツ文学、表象文化論
研 近現代の表象文化
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ

小秋元 段 専任教授 専 日本文学
研 日本中世文学、中世・近世初期出版文化、和漢比較文学
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ 日本文学・国際日本学基礎演習

坂本 勝 専任教授 専 上代文学
研 古事記・万葉集を中心とする上代文学研究
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ 神話と歌Ⅰ/Ⅱ

スティーヴン・ネルソン 専任教授 専 日本音楽史学
研 音楽・古典芸能の歴史、古典文学作品と音楽
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ 国際日本学合同演習 国際日本学論文作成実習(英語)Ⅰ/Ⅱ Issues in Japanese StudiesⅠ

椎名 美智 専任教授 専 言語学
研 社会言語学、語用論、文体論、談話分析
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ

謝 荔 専任教授 専 中国漢族社会の文化人類学的研究
研 中国・日本社会の生活文化の比較
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ

吉成 直樹 専任教授 専 地理学、民族学・民俗学
研 沖縄を中心とする東アジアの社会と文化
担 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ 沖縄学入門Ⅰ/Ⅱ

米家 志乃布 専任教授 専 日本の歴史地理学、日本とロシアの地図史
研 画像史料を用いた日本研究、日本における歴史的町並み保存
担 ※今年度は、特定の科目を担当しません

※国際日本学インスティテュートの学生は、人文科学研究科哲学、日本文学、英文学、史学、地理学のいずれかの専攻へ所属することとなります。

■設置科目 (2016年度) ※開講科目は年度により異なります。()内は単位数

<修士課程>	日本文学・国際日本学論文作成基礎実習(2)	東アジアの律令文化Ⅰ・2/Ⅱ・1・2(各2)
<必修科目・国際日本学演習>	近代の文芸批評Ⅰ/Ⅱ(各2)	王権の政治文化Ⅰ/Ⅱ(各2)
国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)	神話と歌Ⅰ/Ⅱ(各2)	天皇制と地方支配—王権の諸相—Ⅰ/Ⅱ(各2)
国際日本学合同演習(2)	平安時代の物語Ⅰ/Ⅱ(各2)	日本の歴史と宗教(2)
<国際日本学基幹科目>	書誌学と文献学Ⅰ/Ⅱ(各2)	古文書から読む江戸社会・入門編Ⅰ/Ⅱ(各2)
世界の日本論と日本学Ⅰ/Ⅱ(各2)	能と楽劇Ⅰ/Ⅱ(各2)	江戸の地方文化Ⅰ/Ⅱ(各2)
アジアと日本Ⅰ/Ⅱ(各2)	江戸の文芸と文化Ⅰ/Ⅱ(各2)	日本文化と西洋文化Ⅰ/Ⅱ(各2)
国際日本学論文作成実習(英語)Ⅰ/Ⅱ(各2)	江戸の思想史Ⅰ/Ⅱ(各2)	日本の近代と国際社会Ⅰ/Ⅱ(各2)
日本語論文作成実習Ⅰ/Ⅱ(各2)	日本語の歴史と現在Ⅰ/Ⅱ(各2)	沖縄学入門Ⅰ/Ⅱ(各2)
日本語論文作成基礎AⅠ~Ⅳ(各1)	現代日本語のしくみⅠ/Ⅱ(各2)	アーカイブズ学Ⅰ/Ⅱ(各2)
日本語論文作成基礎BⅠ~Ⅳ(各1)	沖縄文芸史Ⅰ/Ⅱ(各2)	文書館管理研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
日本語の性格Ⅰ/Ⅱ(各2)	中国文学Ⅰ/Ⅱ(各2)	記録学科学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
伝統文化と民衆世界Ⅰ/Ⅱ(各2)	女性文学Ⅰ/Ⅱ(各2)	記録学科学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
日本の思想・西欧の思想Ⅰ/Ⅱ(各2)	文学と映画Ⅰ/Ⅱ(各2)	<国際日本学関連科目・風土と民族>
日本の思想Ⅰ/Ⅱ(各2)	文学と風土Ⅰ/Ⅱ(各2)	日本の環境論Ⅰ/Ⅱ(各2)
史料から読む琉球とアジアⅠ/Ⅱ(各2)	表現と社会(2)	日本の産業風土Ⅰ/Ⅱ(各2)
戦後沖縄と対外関係Ⅰ/Ⅱ(各2)	編集理論(2)	地図の文化誌Ⅰ/Ⅱ(各2)
仏教思想と仏教美術Ⅰ/Ⅱ(各2)	英語発音法Ⅰ/Ⅱ(各2)	<博士後期課程>
越境時代の日本文化Ⅰ/Ⅱ(各2)	行動科学方法論Ⅰ(2)	国際日本学研究Ⅰ/Ⅱ
文学・言語・国境(2)	西欧比較文学Ⅰ/Ⅱ(各2)	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ
モノとワザの文化史(2)	Issues in Japanese StudiesⅠ/Ⅱ(各2)	国際日本学特殊研究Ⅰ/Ⅱ
サブカルチャー論Ⅰ/Ⅱ(各2)	<国際日本学関連科目・歴史と思想>	国際日本学特殊講義Ⅰ/Ⅱ
<国際日本学関連科目・文学と言語>	国際日本学論文作成基礎実習(2)	東北アジアの文化伝播Ⅰ・2/Ⅱ・1・2/Ⅲ・1・2(各2)
日本文学・国際日本学基礎演習(2)		

■修了生の研究テーマ

- 平安・鎌倉時代における 箏の演奏伝承に関する研究
- 江戸名所空間の変転
- 大連における帝政ロシア及び日本の植民地統治政策
- 訪日外国人の観光行動の空間的特徴及びメディアとの関係
- 静岡県岳南地域における大気汚染分布と海陸風循環との対応